

令和3年度佐伯教育事務所管内第1回地域授業改善協議会

# 新大分スタンダードを意識した 単元構想について



大分県教育庁佐伯教育事務所

# 令和2年度学校訪問の授業参観から見えてきた課題

- △ ねらい、学習活動、評価規準の整合性が取れていない
- △ つまずきの見取りとその手立てが不十分
- △ 板書計画が不十分

これらのことが散見される

なぜか

ねらい(付けたい力)が明確になっていない

改善へ

ねらい(付けたい力)が明確な授業づくりをするためには

1. 単元で付けたい力を明確にする
2. 単元の中の本時の位置付けを明確にする
3. 付けたい力に応じた評価規準を設定する

## 授業改善の徹底

### □ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- ・ 「育成を目指す資質・能力の柱」がバランスよく実現される単元構想に基づいた一時間のねらいが明確な授業づくり
- ・ ICTを効果的に活用した授業づくり
- ・ 各種加配教員を活用した組織的な授業改善

### □ 個に応じた指導の充実

- ・ 基礎・基本の定着状況の把握と習熟の程度に応じた指導の推進  
→ 各種調査の活用等による個々の児童生徒の定着状況の把握  
→ つまずきの見取りとつまずきを解消する手立ての明確化
- ・ 通常学級における「個別の指導計画」の作成・活用・改善  
→ 「個別の指導計画推進教員」等の活用

## 研究主任の先生方に期待すること

○管内指導の重点である、「育成を目指す資質・能力の柱」がバランスよく実現される単元構想に基づいた一時間のねらい(付けたい力)が明確な授業づくりについて、実際に単元構想を作成する演習を通して、理解を深め、それを校内研修等で先生方に還元していただきたい。それを学校訪問時に作成する授業略案等での指導で生かしていただきたい。

# なぜ単元構想なのか①

## 「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ

(令和2年3月大分県教育委員会)

### 第4章 学校に求められる取組

#### 2 授業改善の徹底

##### ① 小・中学校で進める授業改善

##### 授業の質の向上に向けて

##### <学校に求められる取組のポイント>

#### ◆「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上

- 主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、「新大分スタンダード」に基づいた授業を、単元(題材)のまとまりを見通して1単位時間の「ねらい」や評価規準の適切さ等を確認しながら実施する必要がある。

## なぜ単元構想なのか②

### 学習指導要領解説 総則編

#### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

「(前略)

また、主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して**、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となる。すなわち、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。**

(後略)」



**単元や題材の指導と評価の計画が必要**

# なぜ単元構想なのか③

## 大分県小・中学校教育課程研究協議会の重点

### ◆令和3年度改善の重点

「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元の指導計画作成による授業改善」

### ○設定理由より

**単元(題材)の指導計画があって、1単位時間の指導の充実があります。**単元(題材)の指導計画を作成し、単元における単位時間の役割や位置付けを明確にすることが大切です。

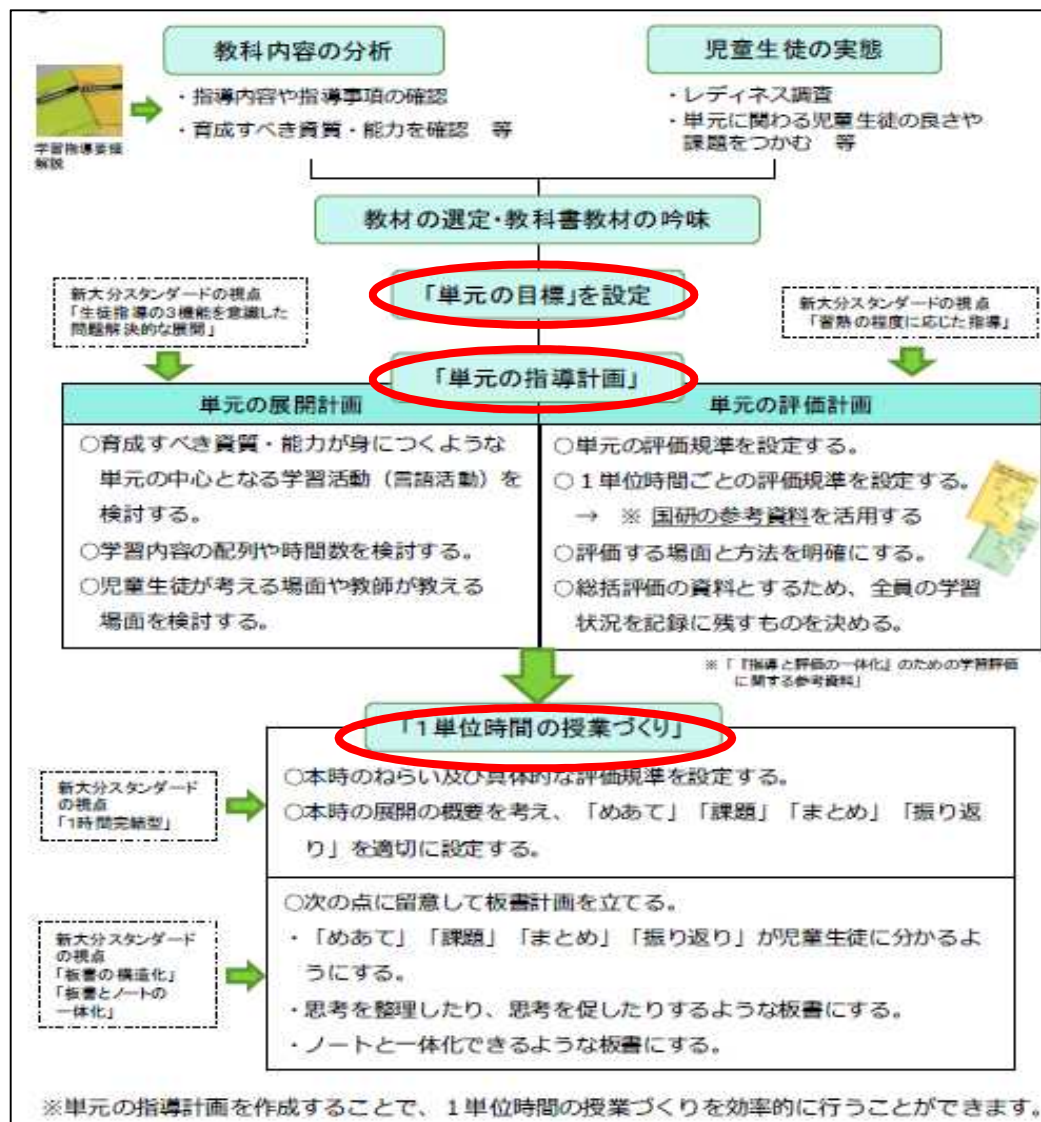


「2020からの新しい授業づくりハンドブック」(令和2年6月大分県教育委員会)

(P3) 1時間の授業構想における留意事項

# なぜ単元構想なのか④

## 新大分スタンダードに基づく授業づくりの推進





# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## ★新大分スタンダードとは



### 新大分スタンダードのすすめ

新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

#### 1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- \*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- \*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- \*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

#### 2 板書の構造化

- \*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

#### 3 習熟の程度に応じた指導

- \*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- \*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる  
「学びに向かう学習集団」

#### 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

- \*各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
- ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
- ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

H31.3月版

# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## 1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

\*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」

\*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

\*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

## 1時間完結型の授業とは、どのような授業？

⇒単元構想に基づいたその1単位時間のねらいが達成される授業

⇒児童生徒にとっては、この時間は何について考えればよいのか、解決のために何をするのか、答えや結論は何か等、1時間(1単位時間)の学びが明確で、「分かる・できる」を実感できる授業

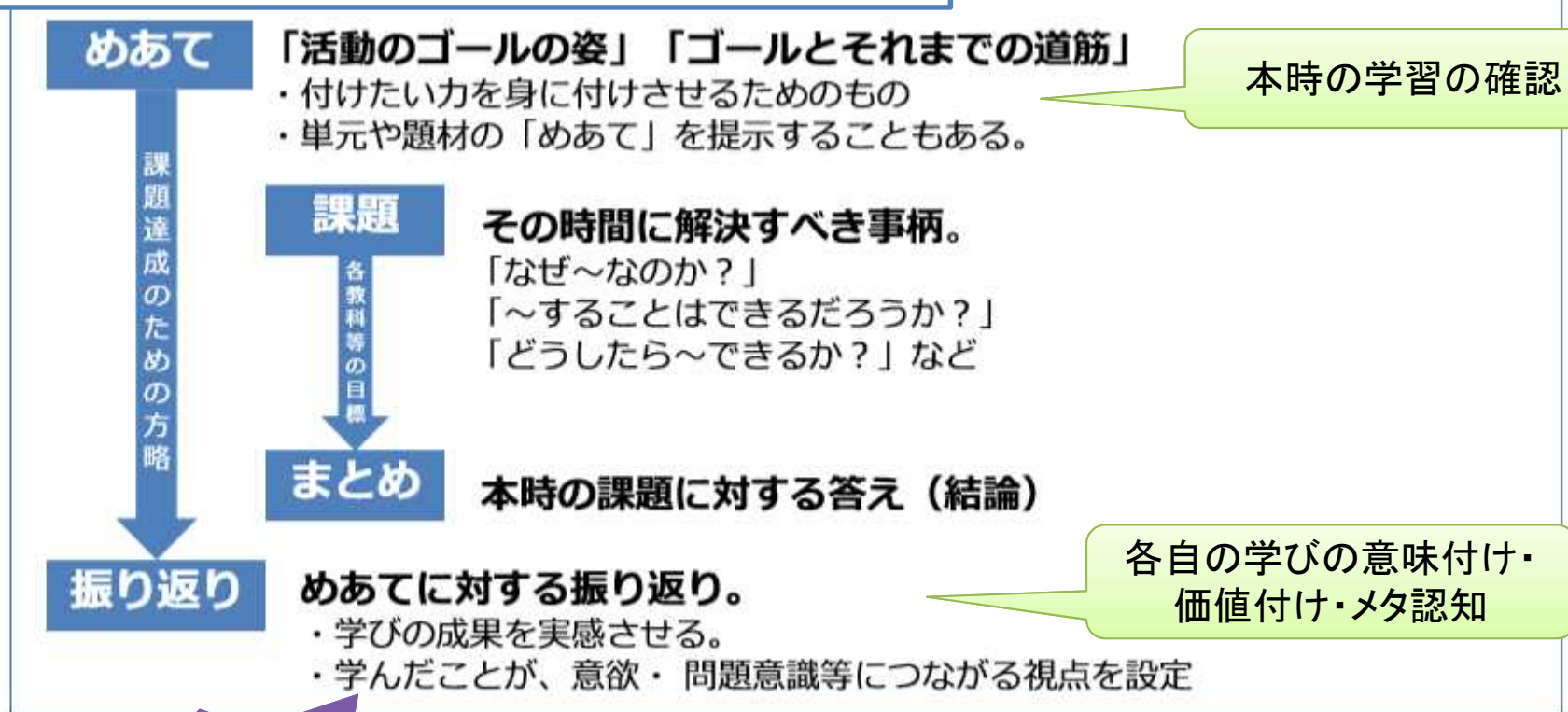
そして…

「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」  
(令和2年3月大分県教育委員会)より

「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」は単元や題材の全体を構想する上でも、重要な要素

# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## 「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定



そして...

- 「めあて」「課題」は、単元や題材全体を見通して設定する場合がある。
- 「振り返り」は短時間で毎時間で行う振り返りの他に、十分に時間をかける「単元や題材全体の振り返り」等、単元や題材を見通して位置付けることが考えられる。

# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## 2 板書の構造化

\*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

### 板書の構造化とは、ということ？

⇒めあてや課題、児童生徒の考え、ねらいに関わるキーワード等が児童生徒の分かるように位置付けられ、児童生徒の深い学びにつながるような板書



- 児童生徒が何を学ぶのかをしっかりとつかめる板書
- 学習内容の概要を振り返ることができる板書
- 授業のねらいに沿った児童生徒の指導の流れが見える板書

### ※板書計画を作成する際の留意点

- 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が児童生徒に分かるように。
- 思考を整理したり、思考を促したりするような板書に。
- ノートと一体化できるような板書に。

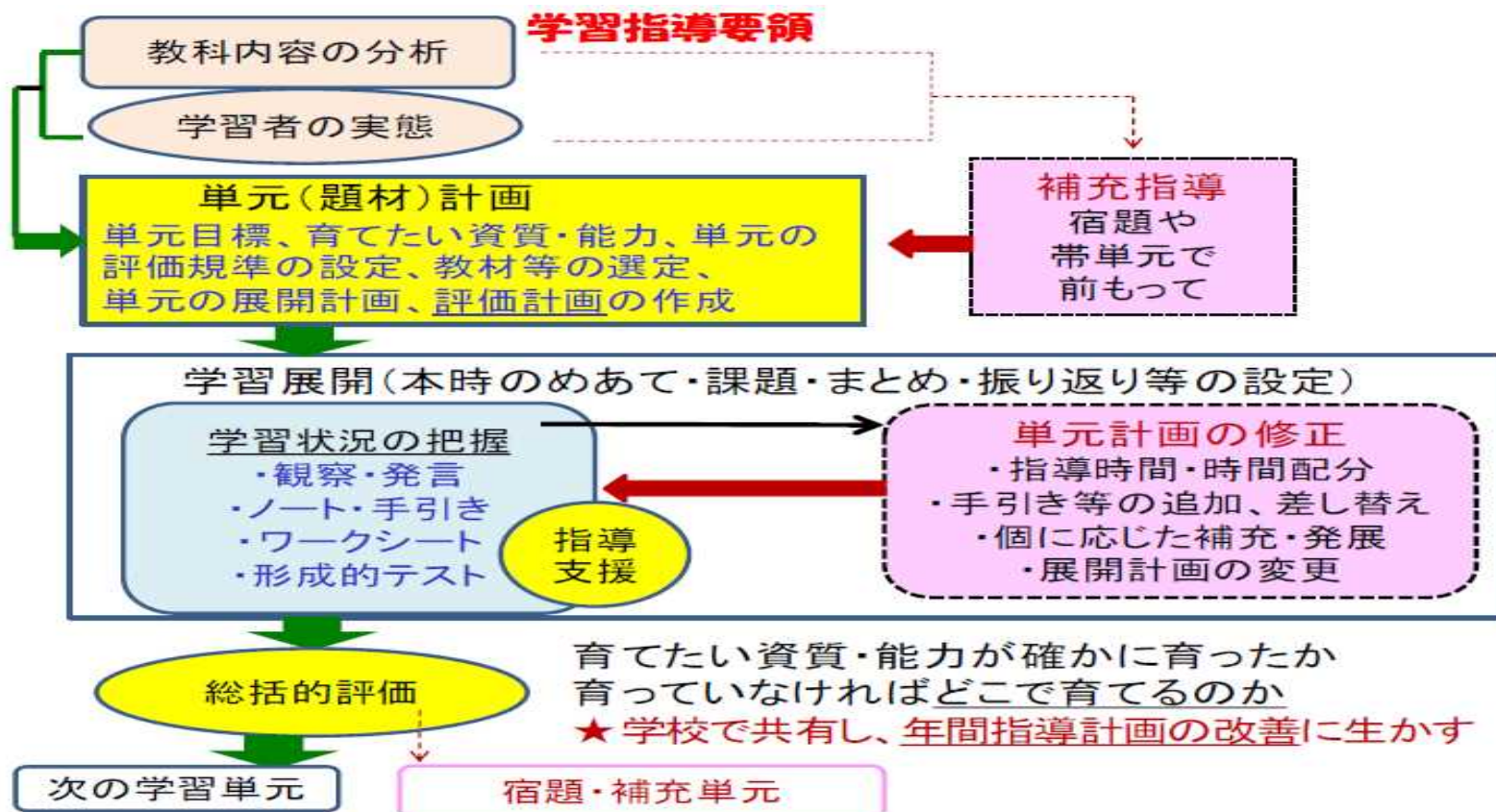


# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## 3 習熟の程度に応じた指導

- \*「**具体的な評価規準**」に基づく確かな見取り
- \*「**努力を要する状況**」の児童生徒に対する手立ての工夫

## 指導と評価の一体化のイメージ

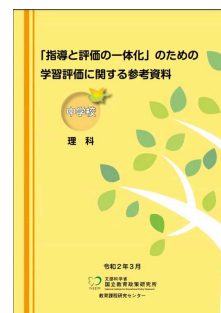


# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## ★評価規準の具体化

### 単元の評価規準

◆「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料」を参考に作成



### 本時の評価規準

- ◇ **単元の評価規準、評価計画に基づいて**、本時の教材・学習活動から、指導者が「おおむね満足できる状況」を設定
- ◇ その際、「Bおおむね満足できる状況」と「C努力を要する状況」との区別ができるところまで具体化して設定する

※「C」の状況の児童生徒に手立てを講じ、全ての児童生徒を「B」の状況まで到達させることを目指す

付けたい力の  
明確化

そして…

児童生徒の学習状況の確かな見取りを行い、指導の改善につなげていくためには、単元や題材の指導と評価の計画が必要

# 新大分スタンダードを意識した単元構想

## 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

### 1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し自分の考えをもつ

### 2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(発表・発信)・成就感  
個に応じた指導

### 3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を認め合い、励まし合い  
新しい考えを創造

そして…

1単位時間のみで考えるのではなく、単元や題材等のまとまりを見通し、児童生徒が考える場面や話し合う場面等を、どのように設定するのか単元や題材全体で考えることが大切

活用！

# 「早わかり！単元計画の作成手順」

(令和3年2月大分県教育委員会)

## ① 指導内容(指導事項)を確認する

・指導する領域別目標を確認する(外国語)

## ② 単元の目標を設定する

・単元の目標と言語活動を設定する(国語)

## ③ 単元の評価規準を設定する

## ④ 指導と評価の計画を作成する

・単元の評価計画を作成する(算数・数学)

## ⑤ 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的にする

・本時の評価規準をもとに、「十分満足できる状況」や「努力を要する状況」を想定する(小:体育)

※総合的な学習は②～⑤の流れ

音楽、家庭、技術、  
図画工作、美術は、  
「単元」を「題材」と  
しています。

### 【道徳】

①指導内容(内容項目)を確認し、ねらいを検討する

②指導内容(内容項目)やねらいに関わる児童生徒の実態を明らかにする

③教材を吟味する・・・児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項を検討

④学習指導過程を作成する(新大分スタンダードとの関係も含む)

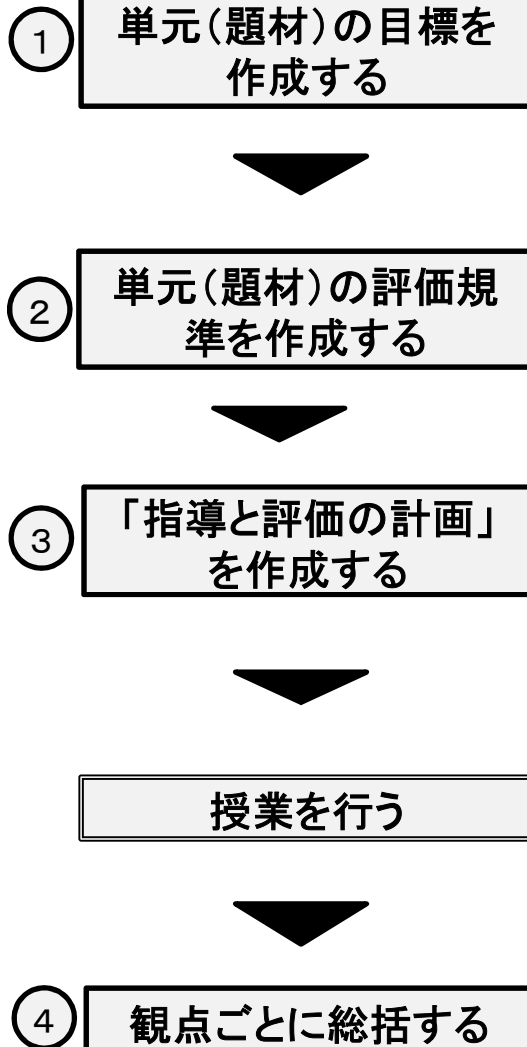
⑤本時において、期待する児童生徒の学習状況を明確にする(評価の着眼点)



活用！

# 単元(題材)における評価規準

## 評価の進め方



## 留意点

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童の実態、前単元(題材)までの学習状況等を踏まえて作成する。



- 1、2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価の資料(児童の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するか考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

# 単元の指導計画(例)

単元の目標		単元の評価規準		
(1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。 (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。 (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとしている。		<b>知識・技能</b> ① 包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。 ② 商数と余りが共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③ 割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	<b>思考・判断・表現</b> ① 除法が用いられる場面や数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ② 余りのある除法の場面に応じて考えている。	<b>主体的に学習に取り組む態度</b> ① 除法が用いられる場面や数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ② 除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えようとしている。
時	単元の展開計画	単元の評価計画		
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。(包含除)		・思①(行動観察、ノート分析)	・思①(行動観察、ノート分析)
2	余りがある場合の除法の式の表し方や余りなどの用語の意味を知る。	・知①(ノート分析)		
3	余りと除数の関係を理解する。	・知③(ノート分析)		
4	等分除の場面についても余りがある場面の除法が適用できるかを考える。		○思①(行動観察、ノート分析)	
5	割り切れない場面の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②(ノート分析)		
6	日常生活の場面に当てはめるときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。		・思①(行動観察、ノート分析)	○思①(行動観察、ノート分析)
8	学習内容の定着を確認する単末問題に取り組む。	・知①②③(ノート分析)		
9	単元全体の学習内容についてのテストに取り組む。(評価テスト)	○知①②③(ペーパーテスト)	○思②(ペーパーテスト)	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○思②(ノート分析)

※指導の改善に生かす評価の機会については「・」  
 ※総括の資料とするための評価として、全員の学習状況を記録に残すものは「○」で示している。  
 「指導の改善に生かす評価」とは、授業中に努力を要する児童生徒を確認し、その後の指導に生かすために行うもの。  
 「総括の資料とするための評価」とは、単元における観点別学習状況評価を行うため、学級全員の児童生徒の学習状況を評価して、記録に残していくもの。(指導要録や通知表の資料とする。)

このあとで、「2020からの新しい授業づくりハンドブック」(令和2年6月大分県教育委員会)4ページの例を参考にして単元の指導計画(単元構想)を作成します。



# 定期学校訪問時に提出いただく板書計画

支援員がいる場合は、授業者の欄に追記して下さい。

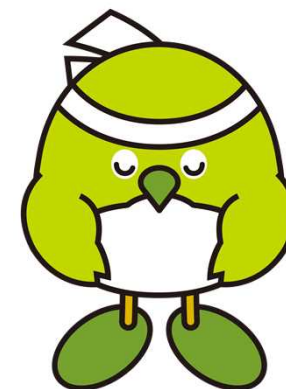
[様式4] 「板書計画」(例)

校時	年 級	人 数	教 諭	〇〇	臨時講師	〇〇	TT、習熟度 ( )
教科	〇〇	<単元で付けたい力(単元の目標)>					
本時の位置付け	( ) / ( ) 時間	この単元を通して付けたい力(単元の目標)を記載します。					
本時のねらい(本時の目標)		その上で、この単元全何時間のうち、何時間目にあたるのか記載します。					
本時の評価規準【観点】		本時のねらい(ポイント参照)と、ねらいと対応した評価規準を記載します。					
「具体的な評価規準」に基づく 確かな見取り	<評価場面>	「具体的な評価規準」に対する確かな見取りについては、評価する場面と評価方法を具体的に記載して下さい。					
	<評価方法>						
「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫	<予想されるつまずき>	「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫については、児童生徒の「つまずき」を予想した具体的な手立てを構想して下さい。					
	<つまずきに対する手立て(場面、方法等)>						
めあて	課題	まとめ	簡単な授業の流れ(「めあて～振り返り等」も含む)を記載して下さい。ただし、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが授業の毎時間で必要であるというわけではありません。				
交流	振り返り	学習展開(学習活動)を簡単に記載して下さい。					
学習活動など	〇	〇	〇	〇	〇	〇	

昨年度からの変更点

<単元で付けたい力(単元の目標)>欄を挿入したこと

自校での先生方への指導をよろしく  
お願いします。



## 演習：単元を構想する

資料を参考に、ある教科・単元の指導と評価の計画を立案する演習を行う。

- \* 小学校は任意の教科、中学校は指導する教科の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の事例の中から1つを選び、「単元計画例」を参考にして作成する。  
(事例を単元計画に落とし込む)